



会派みどり
木下八重子

排水ポンプの設置について

質問 8月に北海道に上陸した台風や停滞前線などによる大雨により、石狩川の水位が上昇した。特に西18丁目の手島川の樋門の水位上昇に対しては、市のポンプで対応していたが間に合わず、札幌開発建設部のポンプ車を借りて排水作業を行った。今後のことを考えると氾濫危険の高い樋門には排水ポンプを常設して迅速な対応が必要と考えるが、見解を伺う。

答弁 市内には国、北海道および土地改良区が管理する樋門・樋管は28か所ありますが、排水ポンプ施設が設置されているのは、4か所となっております。常設のポンプ施設の設置が一番理想的であることは十分承知していますが、河川管理のうえでポンプ施設の常設は難しい状況です。

しかし、地域からの意見や要望もあることから、実現性の判断や設置が不可能となった場合にどの

ような代替えの手法があるのかを含め、国と協議を進めていきたいと考えています。

患者の病状説明について

質問 医師による日頃の患者対応や接遇などの不適切さが患者離れを引き起こす原因につながると考えられるが、市立病院では患者の病状の説明についてどのように対応しているのか伺う。

答弁 病状などの説明については、院内規定で、「医療は、患者と医療従事者がお互いに信頼関係に基づき、協働してつくり上げていくことが必要である。そのため医師をはじめとする医療従事者は、患者が治療方法など自ら選択できるよう理解しやすい言葉や方法で十分な情報提供を行うことが必要である。」となっております。この規定に基づいて対応しています。

なお、患者および家族の皆さんへの説明にあたっては、診察室などで行い、プライバシー保護に十分配慮して実施しているところであります。今後も地域の基幹病院として患者の皆さんに選ばれる病院を目指して取り組んでいきます。



会派みどり
渡邊 龍之

市長の基本姿勢について

質問 利用されずに解体などの処分ができない公共施設の対応について伺う。

答弁 国においては、公共施設等総合管理計画を策定した自治体に対し、公共施設の除却のための特別債の支援を開始しているものの、決して有利な財源手当てではないため、市としては公共施設の老朽化対策の法制化を含む支援措置の充実について総務省や内閣府に要請を続けていきたいと考えています。

質問 平成27年度決算における財政健全化の各指標において、本市は健全ですが、経常収支比率から見ると依然として公債費、人件費、扶助費の固定費の割合が高い水準にある。市税などが自由に使える財源の割合を高めるための方策について伺う。

答弁 ご指摘のとおり経常収支比率は高水準で推移しており、健全

な財政運営とするために早期改善が求められています。この状況を改善するため、滝川市財政健全化計画を策定し、事務事業の見直しや組織・人件費の見直し、歳入の確保対策で総額5億円の効果を生み出すべく計画を積極的に推進しています。

また、ふるさと納税についても積極的に取り組んでおり、今後とも財政健全化計画を着実に実行することが財政の硬直化を改善し、持続可能な財政運営につながるものと考えています。

スポーツ施設の対応について

質問 スポーツ施設整備においては、スポーツ基本法に基づき施設整備計画を策定し、長期的な展開を図るべきと考えるが見解を伺う。

答弁 必要な施設整備は、計画的に進めていかなければならないと認識しています。

各競技団体の要望・意見などを十分に踏まえたうえで、実施内容を精査するとともに、市長部局との密接な連携のもと、財源対策を含め全体を調整しながら進めていかなければならないと考えています。